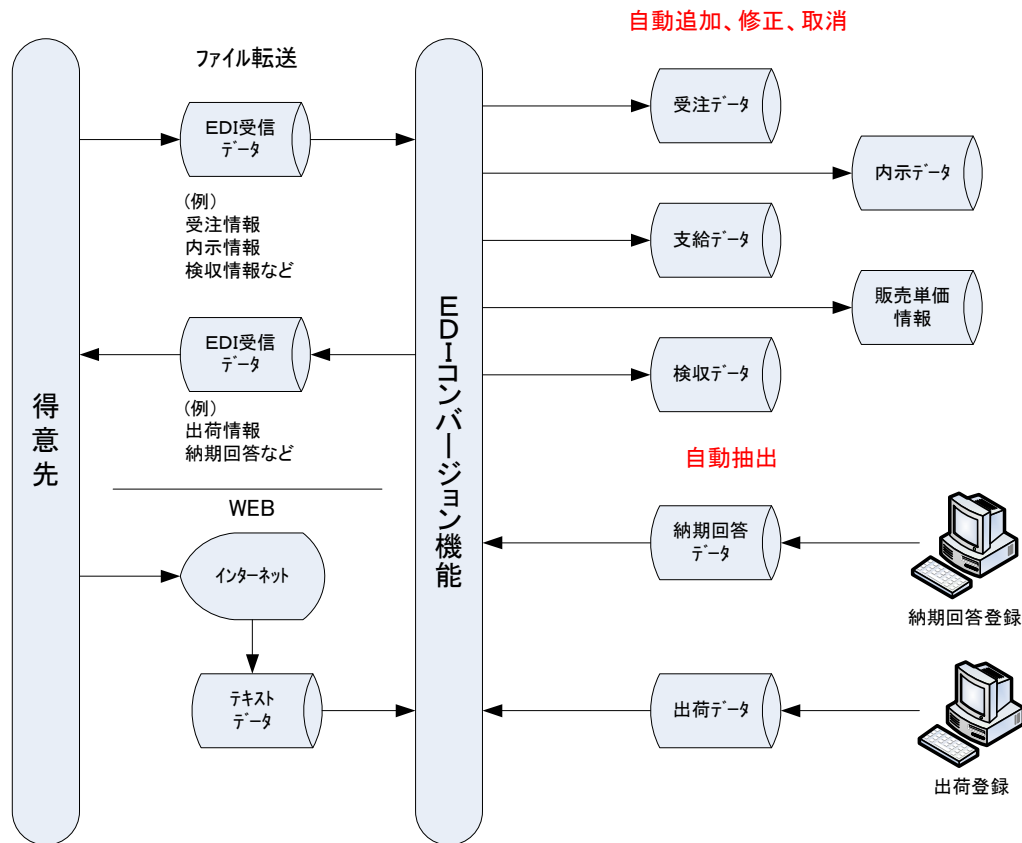


EDI(Electronic Data Interchange) 活用例



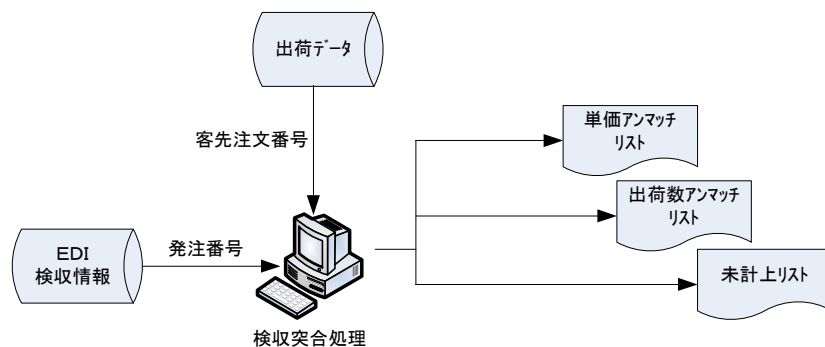
EDIコンバージョン機能は、得意先毎のEDI連携を実施する為に、受信する情報別にデータ変換処理を作成し、自動的に既存システムの情報へ追加します。
また、得意先へ送信する情報についても得意先毎に変換情報を作成します。



EDIコンバージョン活用例

【検収突合せ業務】

得意先EDIからの検収情報と既存システムの出荷情報を突合せを行い、売上情報の検証が自動化できます。あらかじめ設定した突合せキー(得意先注文番号等)を元に不一致情報を項目毎に出力します。従来、検収書(得意先発行)と請求書(自社発行)を帳票毎に突合せが必要になります。

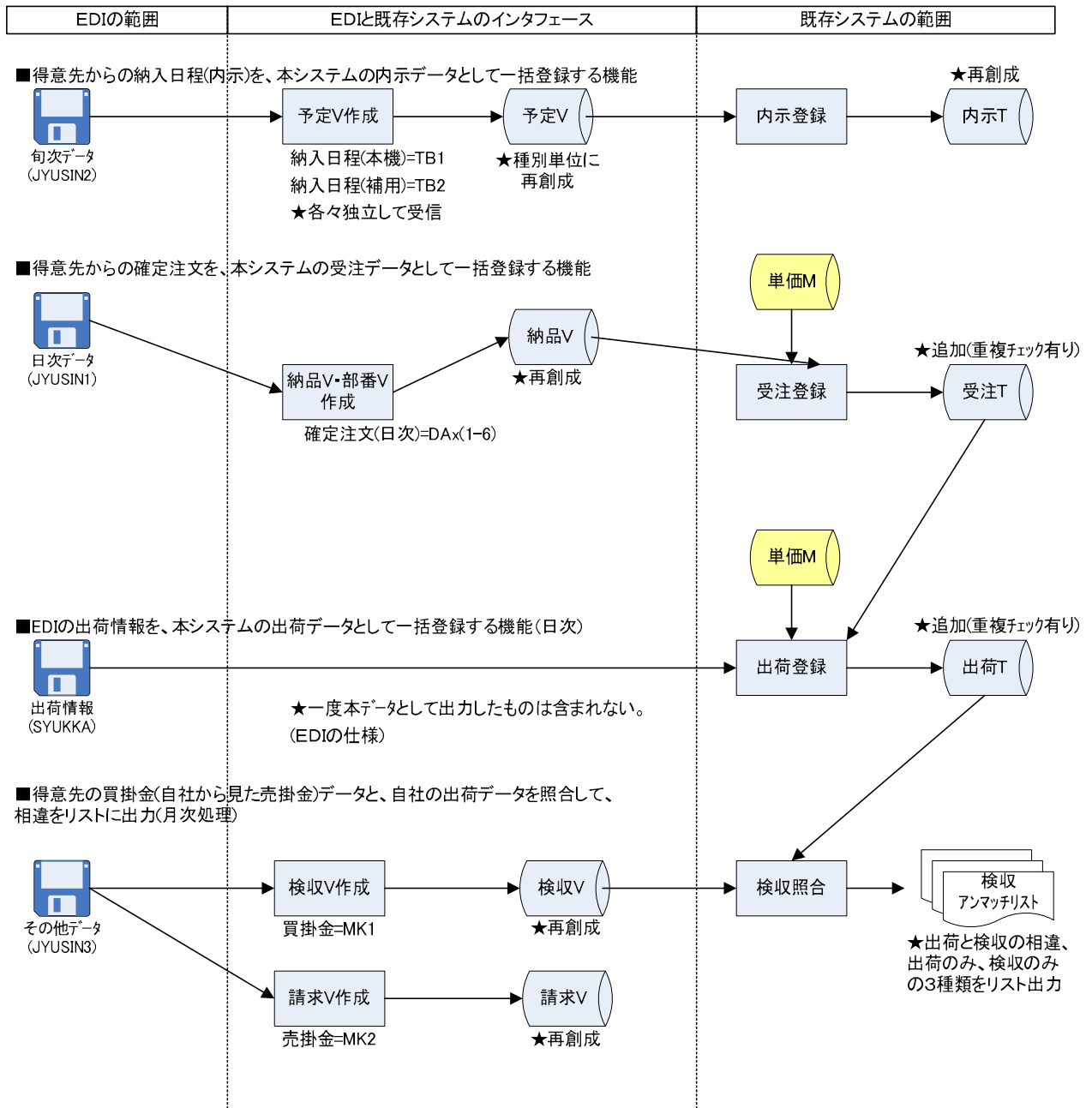


EDIコンバージョン仕様作成例



大まかな流れ

得意先毎のEDI調査・解析→変換仕様設計→既存システム追加仕様設計



<p>日次データ (JYUSIN1)</p>	<p>受信タイミング = 随時</p> <p>受信サイクル = 毎日</p>
<p>その他データ (JYUSIN3)</p>	<p>受信タイミング = 毎月8日ごろ</p> <p>受信サイクル = 月1回</p>
<p>出荷情報 (SYUKKA)</p>	<p>受信でなくEDI情報出力</p> <p>出力タイミング = 随時</p> <p>出力サイクル = 基本的に毎日</p>